

# 南相馬市授業改善プラン2026

南相馬市学校指導委員会

秋田県由利本荘市から学び、平成28年度授業改善プランⅡ、平成31年度授業改善プランⅣ新・南相馬の授業スタイル、そして令和8年度より南相馬市授業改善プラン2026を学校へ周知しています。

南相馬市の小・中学校では、8つのアンケートをもとに授業改善プランを作成し、授業改善に取り組んでいます。この冊子では、南相馬市の子どもたちに身につけさせたい8項目について、全ての教員が共通理解を図り共同歩調で取り組めるよう、学習指導のポイントについてまとめました。

各学校において、この冊子をもとに南相馬の授業スタイルを実践し、学んだことの定着と活用力の向上を図っていきましょう。

## 【目標】

### 学んだことの定着と活用力の向上

～子どもたちが主役の授業への変革～

#### 【授業が変われば子どもが変わる】

【授業改善の合言葉！】

教師はファシリテーションを。課題を工夫し、子どもたちに

**「自ら学ぶ力・学んだことを使える力  
・協働して解決する力」**

を身につけさせましょう！



#### 南相馬市の目指す授業像

授業の中に **協働的に考える・話し合う**活動を多く取り入れることで、課題解決する**子どもたちが主役の授業**を行います。こうした授業を通して子どもたちの**自ら学ぶ力、思考力・判断力・表現力**を育てます。また、振り返りの時間をしっかり確保し、学んだことを使い、**学習の定着**を図れるように授業を行います。

#### 【南相馬市8つのアンケート】(R7全国学力・学習状況調査の分析から設定)

- (1) 授業では、自分で考え、自分から取り組んでいる。
- (2) 授業では、友達との話し合いの中で、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付くことができている。
- (3) 授業では、最後に練習問題を解いたり、感想を書いたりして学習内容を振り返っている。
- (4) 授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっている。
- (5) 授業では、目的を持ってPC、タブレットを使用する活動をよく行っている。
- (6) 家で、自分に必要な学習を考えながら勉強している。
- (7) 学校や家で、読書をしている。
- (8) 自分には、よいところがある。

※上記8つのアンケート全てにおいて児童生徒の4段階中一番上の「そう思う」の割合50%を目標とする。

※これらの項目の数値が上がることで、子どもたちの学びが深まり、学力が向上すると考えています。

## 工夫ある課題設定

前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

選択肢	児童 割合%	国語 正答率	算数 正答率	生徒 割合%	国語 正答率	数学 正答率
1 当てはまる	28.3	67.7	63.3	22.3	59.5	55.7
2 どちらかといえば当てはまる	52.0	61.3	55.9	54.3	55.5	46.7
3 どちらかといえば当てはまらない	16.2	53.6	47.0	19.6	42.6	28.1
4 当てはまらない	3.4	45.5	39.2	2.4	41.8	14.3

R7 全国学力・学習状況調査より

8つのアンケート「授業では、自分で考え、自分から取り組んでいる。」

「福島県 授業スタンダード」から

＜授業の導入～子どもの「問い」や「思い・願い」を引き出し、課題意識を持たせます～＞



【教材との出会い】「問い」や「思い・願い」を引き出すために

○具体物を提示しましょう。

- ・写真や図表、動画、楽譜、絵、デジタル教科書
- ・資料の段階的な提示
- ・複数の資料の比較・対比

## コンパクトでインパクトのある課題提示で、子どもの学ぶ意欲を高める

### ポイント①探究心をつなぐ課題提示

わかりやすい資料を提示し、学ぶ必要感の高い課題設定をし、学習のイメージを持たせましょう。

めあて提示までの時間 授業開始後、約5分以内

- 日常生活の例示
- 実物の提示
- ICTの活用
- 既習事項の活用
- 反転学習の導入



めあては青枠・まとめは赤枠

小中で同じにします

① 三角形や四角形は、辺や頂点を見ればわかる

◇ この「まとめ」を書かせるために  
どんなめあてにしますか？

気を付けてみないと  
間違えるぞ

そうか、〇〇に気を  
付ければ大丈夫だ

② 三角形や四角形は、どこを見ればわかるかな

### ポイント②課題の工夫

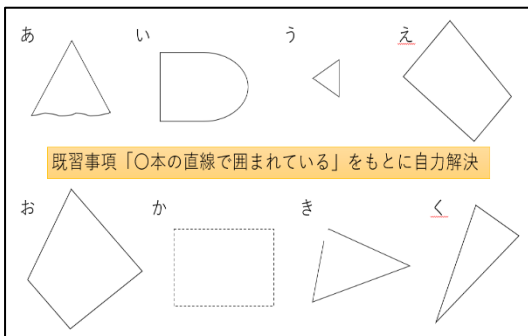
本時で子どもたちに身につけさせたい資質・能力を明確にし、まとめからめあてを考えましょう。

前に習ったアレが  
使えるかな？

「あ」は三角形？  
ん・直線？

「か」は四角形？

「う」は三角形？  
少し曲がってる？



既習事項「〇本の直線で囲まれている」をもとに自力解決



課題の中に子どもたちへの「ゆさぶり」

## 協働・対話を通して課題解決

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

選択肢	児童 割合%	国語 正答率	算数 正答率	生徒 割合%	国語 正答率	数学 正答率
1 当てはまる	40.5	67.9	60.9	38.1	55.7	52.2
2 どちらかといえば当てはまる	47.0	58.2	53.5	49.1	54.9	42.4
3 どちらかといえば当てはまらない	8.1	55.2	48.6	8.2	38.2	19.1
4 当てはまらない	4.0	48.4	52.9	2.7	36.7	26.7

R7 全国学力・学習状況調査より



8つのアンケート「授業では、友達との話し合いの中で、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付くことができています。」

「福島県 授業スタンダード」から

<ペアやグループ・学級全体での話し合い>



- 友達との交流を通して、考えを共有・吟味させましょう。
- 思考過程を可視化しましょう。
- 子どもたちの考えを基に話し合いをコーディネートし、ねらいに迫りましょう。
- つまずきを取り上げる場合には、その子の思いに共感しながら適切に支援しましょう。

## 話し合い・学び合いを活かした授業を行う

○互いの考えをつなぐ協働的な学び合い

展開例

自力解決

↓  
ペア学習、グループ学習

↓  
全体での発表



既習事項の活用

ペア…じっくり話し合わせたい等  
グループ…多様な意見に触れさせたい等

**なぜペア・グループにするのか形態の必要性を考えることが大切**

**「わからない」を恥ずかしがらずに  
言い合える関係性・雰囲気大切**

ポイント

- ・発問の精選、ゆさぶりを。「なぜ?」「どうして?」
- ・見取り (子どもたちがどこに疑問があり、どこで迷っているのか)
- ・話し合いの習慣化 (積み重ねの大事さを)
- ・間違えへの賞賛を (そこからの気づきもある)
- ・様々な視点で (多様な考えを) →見方・考え方が変わる

展開

児童・生徒が主役の授業＝教師はファシリテーション (つなぎ役)

子どもたちの「協働して解決する力」を育成するには、単元計画の中に話し合い、学び合いを設定する必要があります。全ての授業において話し合う活動を取り入れるのではなく、単元の構想の中で、教師が意図的に取り入れていくようにしましょう。

## 学んだことを使う「まとめ・振り返り」

前年度までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

選択肢	児童割合%	国語正答率	算数正答率	生徒割合%	国語正答率	数学正答率
1 当てはまる	29.9	63.8	60.5	17.2	55.6	49.3
2 どちらかといえば当てはまる	49.2	62.0	56.8	60.8	55.3	46.8
3 どちらかといえば当てはまらない	17.8	59.3	48.0	18.9	45.9	30.3
4 当てはまらない	3.1	38.6	43.8	2.1	42.9	20.0

R7 全国学力・学習状況調査より



8つのアンケート

「授業では、最後に練習問題を解いたり、感想を書いたりして学習内容を振り返っている。」

「福島県 授業スタンダード」から

＜終末「まとめ・振り返り→新たな学び」＞



- 「何を学習したか」をまとめましょう…自分のことばでまとめる時間の確保など
- 「どのように学習してきたか」を振り返りましょう…板書やノートを基にした確認など
- 新たな学びに目を向けさせましょう。…次時につながる気づきや疑問など

こんな授業していませんか？

子どもたちと「まとめ」を作り上げる

めあてと整合性のあるまとめ

子どもの声を生かしたまとめ

言語化したまとめ

理由・根拠のあるまとめ

まとめ（わかった！・できた！）を「振り返り」の活動につなぐ

- ・本時の学習を通して感じたことや考えたことを、自分の言葉でまとめる「書く振り返り」
- ・本時の学習を通して身に着けたスキルを活かして、適用問題に取り組む「解く振り返り」

### 【書く振り返り】

感想…本時の学習を振り返り、考えたり感じたりしたことを自由に記述する。  
作文…本時の学習を振り返り、自分だったらどうするか等、テーマや条件に合わせて作文する。

### 【解く振り返り】

適用…本時を振り返り、補充・発展的な練習問題に取り組む。定着を図るのに有効な手段。

振り返りで自分の考えを深め、学んだことを使い学習の定着を図るようにしましょう。

## 個別最適化

前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。

選択肢	児童 割合%	国語 正答率	算数 正答率	生徒 割合%	国語 正答率	数学 正答率
1 当てはまる	31.5	65.3	62.3	22.0	58.6	56.2
2 どちらかといえば当てはまる	53.3	61.1	54.7	60.1	53.8	42.5
3 どちらかといえば当てはまらない	13.1	53.9	47.5	13.1	45.8	33.7
4 当てはまらない	2.2	55.1	44.6	3.4	40.7	18.0

R7 全国学力・学習状況調査より

8つのアンケート「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっている。」

個別最適な学びとは？

「個別最適な学び」は、「**指導の個別化**」と「**学習の個性化**」に整理されています。

「**指導の個別化**」とは、教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子ども一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことをいいます。

「**学習の個性化**」とは、子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、教師が子ども一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子ども自身が学習が最適となるよう調整することをいいます。

文科省 HP より

イメージしやすくすると

### 【指導の個別化】

一定の目標を全ての子どもが達成することを目指し、異なる方法で学習を進める。

🔗 三角形の面積を求めよう

わからない・・・



わかった！  
できた！



困り感を取り除くため  
○ヒントカード  
○ICT 活用  
○～さんと話をしてみようか。(協働的な学びへ)

### 【学習の個性化】

異なる目標に向けて、学習を深め、広げる。

探究学習 個人課題

自分でじゃがいも育てたい

じゃがいもをテーマにすると

おいしいフライドポテトを自動でつくれるマシンを作りたい

じゃがいもは、どこの国から、いつごろきたのかな。

## ICT の活用

前年度までの学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(2) 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる。

選択肢	児童 割合%	国語 正答率	算数 正答率	生徒 割合%	国語 正答率	数学 正答率
1 とてもそう思う	47.0	64.3	57.6	58.4	53.2	43.5
2 そう思う	41.7	61.7	57.2	34.4	56.7	47.0
3 あまりそう思わない	8.7	50.0	45.5	6.2	37.9	30.4
4 そう思わない	2.5	37.5	39.8	0.7	25.0	0.0

R7 全国学力・学習状況調査より

8つのアンケート

「授業では、目的を持ってPC、タブレットを使用する活動をよく行っている。」

### どう使うの？ いつ使うの？ 決めるのは「子どもたち」ICT機器は文房具

大切なのは子どもたちが使う場面を選べることです。どの場面で、どう使うのか、教師がイメージをすることで、よりよい効果が期待できます。まずは授業計画を充実させましょう。

### 使うことは目的ですか？ 使うのは「子どもたち」多様化を見守るのは「教師たち」

ICT活用の授業を見る機会が増えてきました。しかしながら素朴な疑問です。

### 『授業の中でICT機器は、必ず使わせる必要はありますか？』

ICT機器は子どもたちの学習を充実させるための「学びのツール・文房具のひとつ」です。

えんぴつや消しゴムを使わせることに、「何に使うの？」「どう使うの？」と聞きますか？

授業の主演は子どもたち。授業の中で子どもたちが自分で選択し、効果的に使える場面を演出しましょう。子どもたちがICTを使うことを前提ではなく、手段のひとつを前提にしましょう。

全ては子ども次第・私たち教師次第でいいのです。(学びの多様化の考え方)

#### 【板書の場面で】

板書＝授業の記録・まとめ  
書かせる or 書かせない

- ①板書を書く・書き写す  
ノートやワークシートに書くことで本時を整理する
- ②写真に撮る  
時短、見返すこともできる。  
習熟に時間がかけられる
- ③アプリにまとめる  
共有できる・見合える

#### 【授業展開の場面で】

アプリの活用で授業充実

- ①導入での活用  
事前に課題を提示しておき  
導入時の反転学習に活用
- ②まとめ・習熟の場面で  
・AI型タイプ  
つまずきに応じた出題  
・動画タイプ  
本時と同じ動画を見直し  
学び直す
- ③個別最適な学びの実現

#### 【発表の場面で】

共同編集機能の活用で資料作成、プレゼン資料の充実

- ①考えの可視化・変遷を記録
- ②写真や動画、絵、地図、音楽などより具体的な資料作成が可能に
- ③共同編集・共有機能の活用でグループ活動の充実
- ④発表資料＝掲示資料

#### 【教材研究・準備の場面で】

資料やワークシート「手書きの良さ」もありますが、ICTを上手く活用することで、時短にもなります。  
⇒ 場面に応じた活用は、働き方改革にもなるよ！

子どもたちも、先生達もハイブリットな考えで多様化を楽しみながら学びの質を高めましょう。

## 家庭学習

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間含む）

選択肢	児童 割合%	国語 正答率	算数 正答率	生徒 割合%	国語 正答率	数学 正答率
1 3時間以上	7.5	60.9	52.3	8.2	54.2	45.6
2 2時間以上、3時間より少ない	15.6	64.4	54.3	23.4	53.9	48.9
3 1時間以上、2時間より少ない	38.9	66.9	60.7	31.6	56.0	43.0
4 30分以上、1時間より少ない	27.4	55.3	54.0	25.1	51.0	41.4
5 30分より少ない	7.2	55.3	50.5	8.5	48.6	37.7
6 全くしない	3.1	43.6	43.8	4.8	50.0	35.0

R7 全国学力・学習状況調査より

8つのアンケート「家では、自分に必要な学習を考えながら勉強している。」

学校と家庭が力を合わせて、主体的に家庭学習に取り組む児童生徒の育成に取り組みましょう。

### 家庭学習の質

- 次の日の授業内容を考えた問題（予習）
- 授業で学習した適用問題（復習）
- 反転学習（次に日の授業で話し合わせたい内容） など

### 家庭学習の量

#### 家庭学習時間の目安

小学校 低学年 30分 中学年 45分 高学年 60分  
中学校 60分以上

授業と家庭学習が結びつくような宿題の出し方を工夫したり、定着が不十分だと感じている内容を宿題（自主学習）としたりするなど、**家庭学習の質と量を高め**、毎日続けていくことが、**学力の定着**や**自己マネージメント能力**の育成にもつながります

### 子どもたちが継続できるような取り組みを

#### 励ましが見える化

- ノートにコメント記入
- 称賛の場の設定

#### やり方が見える化

- 上手な取り組み方の共有  
・短学活で紹介
- ノート冊数等の掲示

#### 宿題が見える化

- どの教科で、「何を」、「いつまで」かを明示し保護者と共有・生活ノートの活用

## 読書活動の推進

【読書の環境について】

あなたの家には、およそどのくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）。

選択肢	小学校			中学校		
	児童割合%	国語正答率	算数正答率	生徒割合%	国語正答率	数学正答率
3 26冊以上（26～500冊以上の合算平均値）	53.9	66.1	61.4	55.6	59.4	54.1
2 11冊～25冊	29.3	57.5	51.2	22.3	49.0	38.4
1 0冊～10冊	16.8	52.4	45.1	16.8	49.4	37.3

R7 全国学力・学習状況調査より

本と出会える環境が整っていると、正答率が高くなる関係が見られます。

8つのアンケート「学校や家で読書をしている。」

### 読書サイクルをフル回転させましょう！

- 本を読む環境を整える。
- 本に触れる機会やきっかけを与える
- 読む時間を計画的に与える。

読書が好きな子どもを増やすには、授業等、学校図書館、家庭のそれぞれが連携してこの3点を意識し、読書サイクルを回すことが大切です。



学校では…

- ・朝の読書等で読む機会や時間を作る
- ・各授業等で関連する本を紹介する
- ・家庭での読書を推奨する
- ・授業などで学校図書館を活用し、本に触れる機会を増やす など



●法的位置づけ●

学校図書館法では、どの学校にも設置されなければならない（第三条）、学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童又は生徒の健全な教養を育成することを目的とした設備（第二条）として定められています。

## 学校図書館の機能とは？

### 読書センター

- 児童生徒の読書の習慣化を図り、豊かな人間性と情操、創造性をはぐくむ機能
- 児童生徒に読書に対する興味・関心を呼び起こし、読書ができる力をはぐくみ、読書習慣を身に付けさせる読書指導の拠点

★多様な読書活動

読み聞かせ フックトーク 読書会 パネルシアター  
リテラチャーサークル 読書へのアニメーションなど

児童生徒の居場所

### 学習センター

- 児童生徒の主体的な学習活動を支える機能
- 全教科・領域における学習を深め広げる機能

★学習を支える図書館として

図書・情報ファイル・パスファインダー・新聞等  
児童生徒が主体的に学習するための資料の整備・提供  
ティームティーチングによる授業支援  
児童生徒の学習成果物の収集・展示

教員サポート  
教科指導のための研究文献  
教師向け指導書・教材図書

### 情報センター

- 多くの学校図書館メディアの中から必要な資料を探し、そこから有用な情報を引き出し、評価し、比較検討し、自分なりの考えを入れて組み立て、発信する力を育む機能

★多様な情報活用スキル

学校図書館の使い方  
情報の探し方 資料の使い方  
情報リテラシー  
プレゼンテーションのしかた

### 学校図書館の機能を支える専門職員

#### 司書教諭

司書教諭資格を有し、学校図書館の専門的な職務をつかさどる教諭。教諭としての経験を基盤に、学校図書館に関する専門的な知識・技能を用いて、学校図書館経営・運営の計画作成や、校内で読書教育・図書を活用した学習をすすめる中心となります。

協働

#### 学校司書

学校図書館の運営を担当する専門職員。学校図書館メディアの組織化や施設・設備の管理のほかに、レファレンスサービスや資料提供、読書案内など児童生徒や教職員とメディアを結びつける働きをします。また、教員・司書教諭と共に学習を支援します。

(全国学校図書館協議会ホームページより)

## 自己肯定感

自分には、よいところがあると思いますか。

選択肢	児童 割合%	国語 正答率	算数 正答率	生徒 割合%	国語 正答率	数学 正答率
1 当てはまる	42.7	65.2	60.4	38.5	55.1	46.1
2 どちらかといえば当てはまる	43.0	59.5	52.4	48.8	52.5	43.1
3 どちらかといえば当てはまらない	10.0	52.9	49.0	11.0	51.0	36.2
4 当てはまらない	4.4	60.7	64.7	1.7	50.0	42.2

R7 全国学力・学習状況調査より

8つのアンケート「自分には、よいところがある。」

自己肯定感とは、

自分自身の価値や能力を認め、受け入れる感覚のことです。これは、自己評価や自己愛とも関連し、ポジティブな心理状態を促進します。自己肯定感が高いと、挑戦に対する自信が持て、ストレスへの対処がしやすくなります。

自己肯定感を育てることば（例）

- ① 「～さんは素晴らしいね」
- ② 「～さんの意見はとてもすてきだね」
- ③ 「分からなくても大丈夫だよ」
- ④ 「次はうまくやれるよ」
- ⑤ 「～してくれてありがとう」
- ⑥ 「まちがっても大丈夫」



子どもたちの会話の中でも  
このようなことばがでてくると  
いいですね。

授業中、このような場面で自己肯定感が高められます



話合い・学び合い等、双方向の話合いの場面



自分の考えを言葉にして伝える場面



自分の考えを全体の前で話す場面



わかった・できたを実感する場面

子どもたち一人一人をしっかり見  
取り、声をかけるタイミングをの  
がさないようにしましょう。  
そして、

認める  
ほめる  
励ます



令和7年度 南相馬市学校教育指導委員会

委員長	小林 正和 (石神中校長)	副委員長	高野 道子 (原二小教頭)
	吉田 崇紘 (原一小主幹教諭)		遠藤 桂子 (石一小)
	門馬 ミキ (小高小)		佐藤 裕一 (原二中)
			佐藤 朝恵 (原一中)